

星と恋人の聖地から着想

信州芽吹堂

清内路かぼちャのケーキ

清内路かぼちャを作る。

使ったシヨコラケーキ「星ふるさとの恋するかぼちャ」の試食会が9日、阿智村

清内路の旧清内路中学校で開かれた。「日本一の星空」をイメージし、夜空のように黒地ケーキに星のように黄色いカボチャを散りばめた。試

食した清内路かぼちャ保存会（櫻井道治会長）から味のお墨付きをもらい、信州芽吹堂（東方弘社長、松本市）が7月中ごろに商品化する。

信州芽吹堂は20

14年から、清内路かぼちャを使った土産品の開発に取り組んでおり、これまでにカボチャバターとカボチャバウムの種類を商品化している。

阿智村が「日本一の星空」や「恋人の聖地」であることや清内路かぼちャの断面が「ハート型」で「甘い」ことなどから、保存会員で版画家の岡本流生さん（67）が「新たな加

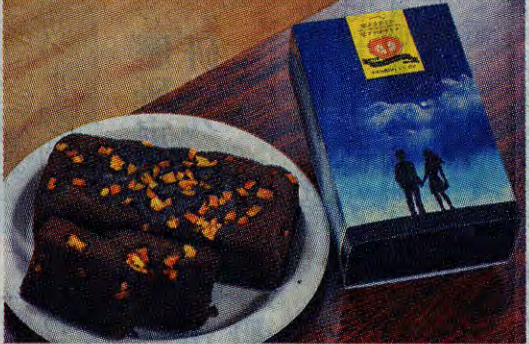
工品のネーミングを『星ふるさとの恋するかぼちャ』にしたかどうか」と提案した。

加工利用者としてカボチャ栽培に協力してきた信州芽吹堂の内山和洋さん（43）が、イメージを具現化しようと試行錯誤してシヨコラケーキにたどり着いた。

試食した櫻井会長（66）は「おいしい。甘さが控えめでカボチャの味もす」と太鼓判を押し

た。名付け親になった岡本さんも「文句のつけようがない。商品化されたら孫たちに食べさせたい」と喜んだ。

7月17日ごろまでに商品化し、ヘブンズそのはらや昼神温泉旅館、清内路健康の森など阿智村内で販売していく。



清内路かぼちャのケーキ



保存会員が試食する